

令和2年度  
厚生労働行政推進調査事業費（障害者政策総合研究事業）  
分担研究報告書

障害者のスポーツ実施の実態および手帳種別、等級、性別、年代との関連  
：「生活のしづらさなどに関する調査」のプレ調査における項目の検討

研究要旨

本研究では、令和3年に厚生労働省が実施予定の「生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）」のプレ調査において、新たに追加したスポーツに関する設問の妥当性を検討することを目的として、プレ調査のデータから障害者のスポーツ実施の実態を明らかにし、設問の意義と課題について整理した。方法は、単純集計、比率の算出、クロス集計、 $\chi^2$ 検定とした。対象となるプレ調査の回答者は589名（身体障害者手帳保持者は423名、療育手帳保持者は92名、精神障害者保健福祉手帳保持者は85名）であった。結果から、手帳種別、等級、性別、年代ごとの障害者のスポーツ実施やスポーツの種類、実施場所や実施頻度等の実態が明らかになった。また、スポーツ実施は身体障害者手帳保持者と、精神障害者保健福祉手帳保持者では男性が女性より多かった。スポーツの種類では、身体障害者手帳保持者では散歩の実施が男性が女性より多く、身体障害者手帳保持者では10代と70代で散歩の実施が多く、精神障害者保健福祉手帳保持者では70代で散歩の実施が多かった。次に、スポーツに関する設問の妥当性については、内容と形式は、実態を把握することができるものとなっているが、一部で重複した内容や、ダブルバーレル質問があった。また、スポーツに関する設問の妥当性については、R3年調査の目的、結果の活用可能性、調査票全体の量とのバランス、設問の優先度をふまえて、関係者間でのさらなる検討が必要と考える。

研究分担者：清野絵、北村弥生、今橋久美子、飛松好子（国立障害者リハビリテーションセンター）、岩谷力（長野保健医療大学）

A. 研究目的

当事者ニーズに基づく制度設計および制度の効果的運用のためには、障害者の実態やニーズを適切に把握する必要があり、そのための調査の1つに厚生労働省が実施する「生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）」がある。本研究では、令和3年に厚生労働省が実施予定の「生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）」（以下、R3年調査）のプレ調査において、新たに追加したスポーツに関する設問の妥当性を検討することを目的として、プレ調査のデータから障害者のスポーツ実施の実態を明らかにし、設問の意義と課題について整理する。

B. 研究方法

1) プレ調査の概要

プレ調査の目的は、R3年調査の設問の妥当性を検証することであった。プレ調査は、長野県飯山市（人口約2万人）に在住する障害者手帳所持者1,221名（身体867名、療育154名、精神200名）

を対象に、郵送法で実施した。回答者数は、589名（回収率48.2%）であった。なお、本研究で対象とした新たに追加したスポーツに関する設問は、結果を健常者と比較できるように、一般人口について使われた調査項目を用いた。余暇については、「余暇時間の活用と旅行に関する世論調査（内閣府、1999）」の設問の一部を、スポーツについては「スポーツの実施状況等に関する世論調査（スポーツ庁、2019）」の設問の一部を修正して使用した。

2) 分析対象

分析対象の設問を下記に示す（表1）。設問はすべて選択式回答であり、また一部に選択肢回答への追加として記述式回答があった。また、問24・51以外は複数回答形式であった。

表1 スポーツに関する設問

問19 余暇時間（週末などの2日以内の休日）には、主にどのようなことをして過ごしていますか。
問20 運動やスポーツをしていますか。
問21 どこで運動やスポーツをしていますか。
問22 運動やスポーツを、どのくらいの頻度で行っていますか。
問24 外出する目的はなんですか。（主なもの3つ）

問 51 現在、特に必要と感じている支援はどのようなことですか。(主なもの6つ)

### 3) 分析方法

単純集計し、比率を算出した。さらに問 19・20 については手帳種別、手帳の等級、性別、年代ごとにクロス集計と  $\chi^2$  検定を行った。有意水準は 5% とした。分析に使用した統計ソフトは SPSS Statistics 26 (IBM 社) であった。

(倫理面への配慮)

本研究は、国立障害者リハビリテーションセンターおよび長野保健医療大学の研究倫理審査の承認を得て行った。

### C. 結果と考察

本研究では、スポーツ実施の実態について手帳種別、手帳の等級、性別、年代ごとの分析を行った。

#### 1) 基礎統計

回答者 589 名のうち、身体障害者手帳保持者は 423 名 (71.8%)、性別は男性 205 名・女性 211 名・答えたくない 1 名、平均年齢は 73.8±15.0 歳であった。療育手帳保持者は 92 名 (15.6%)、性別は男性 43 名・女性 42 名・答えたくない 1 名、平均年齢は 37.5±22.5 歳であった。精神障害者保健福祉手帳保持者は 85 名 (14.4%)、性別は男性 47 名・女性 38 名、平均年齢は 52.9±17.8 歳であった。

#### 2) 余暇時間 (問 19)

余暇時間について、「軽い運動やスポーツ活動 (散歩、ジョギング、水泳、テニス、スキーなど)」の実施の有無について下記にクロス表を示す (表 2～5)。

表 2 余暇時間の軽い運動やスポーツ活動の実施の有無 (手帳種別)

手帳種別 \ 実施	あり	なし
身体障害	77 名 (18.2%)	346 名 (81.8%)
療育	9 名 (9.8%)	83 名 (90.2%)
精神障害	15 名 (14.3%)	70 名 (82.4%)

表 3 余暇時間の軽い運動やスポーツ活動の実施の有無 (手帳の等級)

手帳種別 \ 実施	あり	なし	
身体障害	1 級	28 名 (22.2%)	98 名 (77.8%)
	2 級	5 名 (9.3%)	49 名 (90.7%)
	3 級	11 名 (15.9%)	58 名 (84.1%)
	4 級	19 名 (24.7%)	58 名 (75.3%)

	5 級	3 名 (12.0%)	22 名 (88.0%)
	6 級	4 名 (17.4%)	19 名 (82.6%)
療育	A1	1 名 (4.8%)	20 名 (95.2%)
	A2	1 名 (12.5%)	7 名 (87.5%)
	B1	5 名 (26.3%)	14 名 (73.7%)
	B2	1 名 (3.1%)	31 名 (96.9%)
精神障害	1 級	7 名 (17.1%)	34 名 (82.9%)
	2 級	7 名 (20.0%)	28 名 (80.0%)
	3 級	0 名 (0%)	4 名 (100%)

表 4 余暇時間の軽い運動やスポーツ活動の実施の有無 (性別)

手帳種別 \ 実施	男性	女性
身体障害	49 名 (23.9%)	27 名 (12.8%)
療育	5 名 (11.6%)	4 名 (9.5%)
精神障害	12 名 (25.5%)	3 名 (7.9%)

※括弧内の数値は、各性別内での実施有の割合

表 5 余暇時間の軽い運動やスポーツ活動の実施の有無 (年代)

手帳種別 \ 実施	あり	なし	
身体障害	10 歳未満	0 名 (0%)	2 名 (100%)
	10 代	1 名 (33.3%)	2 名 (66.7%)
	20 代	0 名 (0%)	2 名 (66.7%)
	30 代	2 名 (50.0%)	49 名 (63.6%)
	40 代	1 名 (9.1%)	10 名 (90.9%)
	50 代	6 名 (19.4%)	22 名 (71.0%)
	60 代	14 名 (16.5%)	64 名 (75.3%)
	70 代	23 名 (22.5%)	71 名 (69.6%)
	80 代	25 名 (18.9%)	76 名 (57.6%)
療育	10 歳未満	0 名 (0%)	1 名 (100%)
	10 代	2 名 (9.1%)	20 名 (90.9%)
	20 代	0 名 (0%)	13 名 (100%)
	30 代	2 名 (12.5%)	13 名 (81.3%)
	40 代	3 名 (33.3%)	6 名 (66.7%)
	50 代	2 名 (33.3%)	4 名 (66.7%)
	60 代	0 名 (0%)	5 名 (83.3%)
	70 代	0 名 (0%)	8 名 (100%)
	80 代	0 名 (0%)	2 名 (66.7%)
精神障害	10 歳未満	0 名 (0%)	2 名 (100%)
	10 代	0 名 (0%)	2 名 (100%)
	20 代	2 名 (25.0%)	6 名 (75.0%)
	30 代	3 名 (30.0%)	7 名 (70.0%)
	40 代	2 名 (15.4%)	10 名 (76.9%)
	50 代	2 名 (10.5%)	17 名 (89.5%)
	60 代	1 名 (7.1%)	12 名 (85.7%)
	70 代	3 名 (37.5%)	4 名 (50.0%)
80 代	1 名 (16.7%)	5 名 (83.3%)	

90代	1名 (100%)	0名 (0%)
-----	-----------	---------

各手帳種別における、軽い運動やスポーツ活動の実施の有無（表2）について $\chi^2$ 検定を行った。その結果、身体障害者手帳保持者、療育手帳保持者、精神障害者保健福祉手帳保持者で有意差は見られなかった。

次に、各手帳種別の等級における、軽い運動やスポーツ活動の実施の有無（表3）について $\chi^2$ 検定を行った。その結果、身体障害者手帳保持者、療育手帳保持者、精神障害者保健福祉手帳保持者で有意差は見られなかった。

次に、各手帳種別内の性別による、軽い運動やスポーツ活動の実施の有無（表4）について $\chi^2$ 検定を行った。その結果、身体障害者手帳保持者で有意差が見られた（ $\chi^2=8.687$ ,  $df=2$ ,  $p=0.01$ ）。この結果と残差から、身体障害者手帳保持者ではスポーツ実施は男性で多いことが示唆された。療育手帳保持者で有意差は見られなかった。次に、精神障害者保健福祉手帳保持者で有意差が見られた（ $\chi^2=4.497$ ,  $df=2$ ,  $p=0.03$ ）。この結果と残差から、精神障害者保健福祉手帳保持者ではスポーツ実施は男性で多いことが示唆された。

次に、各手帳種別内の年代による、軽い運動やスポーツ活動の実施の有無（表5）について $\chi^2$ 検定を行った。その結果、身体障害者手帳保持者、療育手帳保持者、精神障害者保健福祉手帳保持者で有意差は見られなかった。

### 3) 実施している運動やスポーツの種類（問20）

運動やスポーツを実施している場合に、その種類である「散歩」「体操」「スポーツ」の別を下記にクロス表を示す（表6～9）。

各手帳種別における、散歩・体操・スポーツの実施の有無（表6）について $\chi^2$ 検定を行った。その結果、身体障害者手帳保持者、療育手帳保持者、精神障害者保健福祉手帳保持者の散歩、体操、スポーツで有意差は見られなかった。

次に、各手帳種別内の性別による、散歩・体操・スポーツの実施の有無（表8）について $\chi^2$ 検定を行った。その結果、身体障害者手帳保持者の散歩に有意差が見られた（ $\chi^2=7.034$ ,  $df=2$ ,  $p=0.03$ ）。この結果と残差から、身体障害者手帳保持者では散歩の実施は男性で多いことが示唆された。体操・スポーツでは有意差は見られなかった。次に、療育手帳保持者、精神障害者保健福祉手帳保持者の散歩、体操、スポーツで有意差は見られなかった。

次に、各手帳種別の等級における、散歩・体操・スポーツの実施の有無（表7）について $\chi^2$ 検定を行った。その結果、身体障害者手帳保持者、療育手帳保持者、精神障害者保健福祉手帳保持者の散歩、

体操、スポーツで有意差は見られなかった。

次に、各手帳種別内の性別による、散歩・体操・スポーツの実施の有無（表8）について $\chi^2$ 検定を行った。その結果、身体障害者手帳保持者の散歩に有意差が見られた（ $\chi^2=7.034$ ,  $df=2$ ,  $p=0.03$ ）。この結果と残差から、身体障害者手帳保持者では散歩の実施は男性で多いことが示唆された。体操・スポーツでは有意差は見られなかった。次に、療育手帳保持者、精神障害者保健福祉手帳保持者の散歩、体操、スポーツで有意差は見られなかった。

表6 散歩・体操・スポーツの実施の有無（手帳種別）

手帳種別		実施	
		あり	なし
身体障害	散歩	134名 (31.7%)	289名 (68.3%)
	体操	43名 (10.2%)	380名 (89.8%)
	スポーツ	41名 (9.7%)	379名 (90.3%)
療育	散歩	24名 (26.1%)	68名 (73.9%)
	体操	7名 (7.6%)	85名 (92.4%)
	スポーツ	11名 (12.0%)	81名 (88.0%)
精神障害	散歩	27名 (31.8%)	58名 (68.2%)
	体操	12名 (14.1%)	73名 (85.9%)
	スポーツ	9名 (10.6%)	76名 (89.4%)

表7 散歩・体操・スポーツの実施の有無（手帳の等級）

手帳種別	内容	散歩	体操	スポーツ
		1級	38名 (29.9%)	16名 (12.6%)
身体障害	2級	14名 (25.9%)	6名 (11.1%)	4名 (7.4%)
	3級	27名 (39.1%)	5名 (7.2%)	6名 (8.7%)
	4級	23名 (29.9%)	5名 (6.5%)	9名 (11.7%)
	5級	8名 (32.0%)	6名 (24.0%)	3名 (12.0%)
	6級	8名 (34.8%)	0名 (0%)	1名 (4.3%)
	療育	A1	7名 (33.3%)	0名 (0%)
A2		3名 (37.5%)	1名 (12.5%)	0名 (0%)
B1		5名 (26.3%)	2名 (10.5%)	2名 (10.5%)
B2		4名 (12.5%)	3名 (9.4%)	5名 (15.6%)
精神障害	1級	13名 (31.7%)	7名 (17.1%)	6名 (14.6%)
	2級	12名 (34.3%)	5名 (14.3%)	2名 (5.7%)
	3級	0名 (0%)	0名 (0%)	1名 (25.0%)

※括弧内の数値は、各等級内での実施有の割合

表8 散歩・体操・スポーツの実施の有無

(性別)

実施 手帳種別		(性別)	
		男性	女性
身体障害	散歩	70名 (34.1%)	59名 (28.0%)
	体操	19名 (9.3%)	24名 (11.4%)
	スポーツ	26名 (12.7%)	15名 (7.1%)
療育	散歩	15名 (34.9%)	7名 (16.7%)
	体操	1名 (2.3%)	6名 (14.3%)

精神障害	スポーツ	7名 (16.3%)	4名 (9.5%)
	散歩	15名 (31.9%)	12名 (31.6%)
	体操	8名 (17.0%)	4名 (10.5%)
	スポーツ	5名 (10.6%)	4名 (10.5%)

※括弧内の数値は、各性別内での実施有の割合

表9 散歩・体操・スポーツの実施の有無 (年代)

手帳種別		内容	散歩	体操	スポーツ
身体障害	10歳未満		0名 (0%)	0名 (0%)	1名 (50.0%)
	10代		3名 (100%)	0名 (0%)	0名 (0%)
	20代		1名 (33.3%)	0名 (0%)	0名 (0%)
	30代		2名 (50.0%)	1名 (25.0%)	0名 (0%)
	40代		5名 (45.5%)	0名 (0%)	0名 (0%)
	50代		7名 (22.6%)	3名 (9.7%)	5名 (16.1%)
	60代		24名 (28.2%)	6名 (7.1%)	6名 (7.1%)
	70代		33名 (32.4%)	10名 (9.8%)	17名 (16.7%)
	80代		47名 (35.6%)	21名 (15.9%)	12名 (9.1%)
	90代		7名 (17.5%)	2名 (5.0%)	0名 (0%)
療育	10歳未満		0名 (0%)	0名 (0%)	1名 (100%)
	10代		1名 (33.3%)	0名 (0%)	7名 (31.8%)
	20代		4名 (30.8%)	1名 (7.7%)	1名 (7.7%)
	30代		3名 (18.8%)	2名 (12.5%)	1名 (6.3%)
	40代		4名 (33.3%)	0名 (0%)	2名 (22.2%)
	50代		3名 (50.0%)	1名 (16.7%)	0名 (0%)
	60代		1名 (16.7%)	1名 (16.7%)	0名 (0%)
	70代		4名 (50.0%)	0名 (0%)	0名 (0%)
精神障害	10歳未満		0名 (0%)	0名 (0%)	1名 (50.0%)
	10代		0名 (0%)	0名 (0%)	2名 (100%)
	20代		3名 (37.5%)	0名 (0%)	1名 (12.5%)
	30代		3名 (30.0%)	1名 (10.0%)	2名 (20.0%)
	40代		3名 (23.1%)	1名 (7.7%)	1名 (7.7%)
	50代		4名 (21.1%)	4名 (21.1%)	2名 (10.5%)
	60代		3名 (21.4%)	3名 (21.4%)	0名 (0%)
	70代		6名 (75.0%)	2名 (25.0%)	1名 (12.5%)
	80代		3名 (50.0%)	0名 (0%)	0名 (0%)
	90代		1名 (100%)	0名 (0%)	0名 (0%)

※括弧内の数値は、各年代内での実施有の割合

次に、各手帳種別内の年代による、散歩・体操・スポーツの実施の有無(表9)について $\chi^2$ 検定を行った。その結果、身体障害者手帳保持者の散歩については10代( $\chi^2=10.795$ ,  $df=1$ ,  $p=0.001$ )、70代( $\chi^2=5.489$ ,  $df=1$ ,  $p=0.02$ )で有意差が見られた。この結果と残差から、身体障害者手帳保持者では10代と70代で散歩実施が多いことが示唆された。20~60代、80代、90代では有意差は見られなかった。次に、身体障害者手帳保持者の体操については10~90代で、スポーツについては10

~80代で有意差は見られなかった。

次に、療育手帳保持者の散歩については10~80代で、体操については10~90代で、スポーツについては10歳未満、10~90代で有意差は見られなかった。

次に、精神障害者保健福祉手帳保持者の散歩については70代( $\chi^2=5.692$ ,  $df=1$ ,  $p=0.017$ )で有意差が見られた。この結果と残差から、精神障害者保健福祉手帳保持者では70代で散歩実施が多いことが示唆された。10~60代と80代、90代で

は有意差は見られなかった。体操については10～90代で、スポーツについては10～80代で有意差は見られなかった。

次に、回答が「スポーツ」の場合の、内容の記述式回答を、内容ごとに整理した。記述式回答の総数は52件であった。身体障害者手帳保持者の回答数は34件であった。その内訳は、マレットゴルフ9件、ゴルフ3件、ゲートボール3件、ジョギング2件等であった。療育手帳保持者の回答数は10件であった。その内訳は、バドミントン4件、スイミング4件等であった。精神障害者保健福祉手帳保持者の回答数は8件であった。その内訳は、バドミントン2件等であった。

#### 4) 運動やスポーツの実施場所 (問21)

運動やスポーツを実施している場所を、手帳種別や年代等を区別せず示す。実施場所の回答者数は、屋外が107名(18.2%)、家庭内が57名(9.7%)、障害者センターが22名(3.7%)、障害者センター以外の公共施設が13名(2.2%)、民間施設が15名(2.5%)、その他が30名(5.1%)であった。また、その他の記述式回答は24件であった。内容は、学校6件、デイサービス2件等であった。

#### 5) 運動やスポーツの実施頻度 (問22)

運動やスポーツを実施している頻度を、手帳種別や年代等を区別せず示す。頻度の回答者数は、頻度が多いものから順に、週3日以上が88名(14.9%)、週1～2日が69名(11.7%)、月1～3日が23名(3.9%)、3ヶ月に1～2日が3名(0.5%)、年に1～3日が3名(0.5%)、わからないが17名(2.9%)であった。

#### 6) 外出目的 (問24)

外出する目的について、主な3つに「趣味やスポーツをする」を選択した回答者数は、49名(8.3%)であった。

#### 7) 必要と感じている支援 (問51)

現在、特に必要と感じている支援について、主な6つに「スポーツ、レクリエーション、文化活動等に対する援助」を選択した回答者数は、18名(3.1%)であった。

### D. 考察・結論

本研究では、R3年調査プレ調査のデータから障害者のスポーツ実施の実態について分析を行った。下記に、明らかになった実態をふまえ、設問の意義と課題について整理する。

#### 1) スポーツの実施

余暇時間についての設問では、軽い運動やスポーツ活動の実施状況が手帳種別、等級、性別、年代ごとに明らかになった。手帳種別で見ると、実施割合は身体障害者手帳保持者で約18%、療育手帳保持者で約10%、精神障害者保健福祉手帳保持者で約14%であった(表2)。次に、手帳の等級で見ると、実施割合は、身体障害者手帳保持者では4級、1級、6級、3級、2級の順で多く、療育手帳保持者ではB1、A2、A1、B2の順で多く、精神障害者保健福祉手帳保持者では2級、1級の順で多かった(表3)。次に、性別で見ると、実施割合は、身体障害者手帳保持者と精神障害者保健福祉手帳保持者では性が女性より多かった(表4)。次に、年代別に見ると、実施割合は身体障害者手帳保持者では30代、10代、70代、50代、80代、60代、90代、40代の順で多かった(表5)。療育手帳保持者では40代と50代、30代、10代の順で多かった(表5)。精神障害者保健福祉手帳保持者では90代、70代、30代、20代、80代、40代、50代、60代の順で多かった(表5)。

なお、スポーツの実施については、このうち手帳種別、手帳の等級、年代では明確な関連は確認できなかった。この理由として、各カテゴリの標本数が少ないことが影響している可能性が考えられる。また、身体障害者手帳保持者と精神障害者保健福祉手帳保持者では、70～90代で軽い運動やスポーツ活動を実施している回答者がいることから(表5)、高齢でもスポーツ実施ができていない障害者がいる状況が伺えた。

#### 2) スポーツの種類

運動やスポーツの実施についての設問では、実施しているスポーツの種類が、手帳種別や手帳の等級、性別、年代ごとに明らかになった。手帳種別で見ると、実施割合は、身体障害者手帳保持者で散歩が約30%、体操が約10%、スポーツは約10%、療育手帳保持者で散歩が約26%、体操が約8%、スポーツが約12%、精神障害者保健福祉手帳保持者で散歩が約32%、体操が約14%、スポーツが約11%であった(表6)。次に、手帳の等級で見ると、実施割合は、身体障害者手帳保持者の散歩は3級、6級、5級、1級と4級、2級の順で多く、体操は5級、1級、2級、3級、4級の順で多く、スポーツ

は5級、4級、1級、3級、2級、6級の順で多かった(表7)。次に、療育手帳保持者の散歩はA2、A1、B1、B2の順で多く、体操はA2、B1、B2の順で多く、スポーツはB2、B1、A1の順で多かった(表7)。次に、精神障害者保健福祉手帳保持者の散歩は2級、1級の順で多く、体操は1級、2級の多く、スポーツは3級、1級、2級の順で多かった(表7)。次に、性別で見ると、身体障害者手帳保持者では散歩の実施割合は、男性が女性より多かった(表8)。次に、年代で見ると、身体障害者手帳保持者の散歩では10代と70代が、精神障害者保健福祉手帳保持者の散歩では70代が実施が多かった(表9)。70代で散歩の実施が多いことは、散歩が体操やスポーツと比べ高齢でも比較的实施しやすい内容であることを示している可能性が考えられる。

なお、スポーツの種類については、手帳種別、手帳の等級では明確な関連は確認できなかった。その理由として、標本数が少ないことや、スポーツの種類が、障害程度より個人の趣味嗜好や、環境や実施の機会等の要因に影響を受けている可能性が考えられる。

### 3) 実施場所、頻度、外出目的、必要な支援

運動やスポーツの実施場所については、屋外が約18%で最も多かった。次に、運動やスポーツの実施頻度は、週3日以上が約15%で最も多く、このことから障害者の一部は、スポーツを日常的に実施している状況が伺えた。今後、障害がない人のスポーツの実施状況との比較を行うことで、障害者のスポーツ実施の特徴を把握できる可能性があると考えられる。次に、外出目的については、「趣味やスポーツ」を目的とする外出が約8%であった。次に、必要と感じている支援については、「スポーツ、レクリエーション、文化活動等に対する援助」が約3%であった。

### 4) スポーツに関する設問の意義と課題

プレ調査のスポーツに関する設問により、障害者のスポーツの実施や実施しているスポーツの種類割合や多寡、またスポーツの実施場所、頻度、関連する外出目的や必要な支援の割合が明らかになった。このことから、今回新たに追加した設問は、障害者のスポーツ実施の実態を把握できるものとなっており、一定の意義があると考えられる。

一方、課題としては、下記の3つが指摘できる。1つ目は、スポーツ実施に影響を与える要因や効果については把握できないことである。2つ目は、設問内容が一部重複していたことである。具体的には、問19の余暇時間についての設問と、問20の運動やスポーツについての設問が、実施の有無を把握するという点では同じ内容を質問していた。3つ目は、スポーツ以外の内容が入ったダブルバーレル質問があったことである。具体的には、問24は趣味とスポーツについて、また問51はスポーツ、レクリエーション、文化活動等について同時に質問している。この課題を解決する方策としては、1つ目の課題については、要因や効果についての設問を追加すること、2つ目の課題については、設問内容を整理すること、3つ目の課題については、スポーツのみについて質問する設問を作成することが考えられる。

### 5) スポーツに関する設問の妥当性

本研究では、R3年調査のプレ調査として、新たにスポーツに関する設問を追加し、その分析と、設問の意義と課題の整理を行った。以上をふまえて、下記に設問の妥当性について検討を行うこととする。設問の内容については、スポーツ実施の割合、スポーツの種類の実態を把握できるものであったが(表2~9)、要因と効果を把握するにはさらに設問の追加等が必要な可能性がある。また、内容については一部に重複があり、設問の改善が必要である。次に、設問の形式については、一部にダブルバーレル質問があった。そのため、スポーツのみの結果を把握する必要がある場合は、形式の改善が必要である。次に、設問を追加することについては、R3年調査の目的、結果の制度・政策への反映等の活用可能性、調査票全体の量とのバランス、設問の優先度をふまえて、関係者間でのさらなる検討が必要と考える。

### E. 引用文献

- 1) 内閣府(1999) 余暇時間の活用と旅行に関する世論調査, <https://survey.gov-online.go.jp/h11/yoka/index.html> (最終アクセス日: 2021年5月20日)
- 2) スポーツ庁(2019) スポーツの実施状況等に関する世論調査,

[https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/toukei/chousa04/sports/1415963\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/sports/1415963_00001.htm) (最終アクセス日：2021年5月20日)

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・取得状況

なし